

具体的な学校経営目標	① 学びのメタ認知化と「主体的・対話的で深い学び」の推進、「指導と評価の一体化」の実践を目指した組織的な授業改善により、真に「自立した人間」に求められる学力を向上させるとともに、生徒が各自で見定めた進路を保障する。 ② 学校行事、総合的な学習の時間、社会貢献・国際交流活動、部活動、課外活動などの、生徒の主体的な活動の更なる活性化、諸活動及び校外との連携の強化を図り本校に対する地域からの信頼を高める。 ③ 安心・安全・快適な、また一人一人の生徒の自律性と規範意識を伸ばさせて健全な学校生活を送ることができる環境づくりの推進。 ④ 生徒の「伴走者」として寄り添いともに学びながら進む組織的・協働的な教職員集団になることで、上記の目標の効率的な実現を目指す。	
今年度の具体的な目標	教務課	生徒指導課
現状分析	(1) 学力向上委員会の取組として3人1組で研究グループを編成しているが、それぞれのグループの活動と研究成果を掌握しかねる。 (2) 「目標に準拠した評価」の捉え方が教科や教員によってさまざまである。また、各教科・科目の単位認定基準が区画であると同時に、総括的評価も教科内においてさえ科目によって様々である。 (3) 周辺地域の学校が少子化の煽りで大きく定員割れを起こしている。幸いにも本校は定員割れを起こしていないが、これを対岸の火事と済ますわけにはいかない。定員確保の対策と方策を練ることが急務である。	(1) (2) (3) 生徒対象の学校教育診断結果によるH28年度からH30年度の3か年比較では前年度を上回っている。 ・勉強以外のことにも一生懸命になれる 65.8%→68.4%→73.3% ・けじめある学校生活を送れている 60.2%→71.1%→77.3% ・社会のルールやマナーを守っている 67.3%→75.5%→90.6% ・あいさつを積極的にする 69.4%→72.3%→83.5% ・人権及び命の大切さを考える機会がある 58.1%→68.9%→74.6% ※保護者対象の学校教育診断結果で、望ましい生徒指導ができていない 68.1%→68.3%→72.7% しかし、教員の意識とのギャップがかなりある。 ・社会規範や市民道徳を守る指導を十分に行っている 86.0%→92.7%→82.9% ・マナー教育を十分に行っている 86.0%→87.8%→73.2% ・共通理解に基づいて生徒指導を行っている 75.0%→68.3%→61.0%
具体的計画	(1) 教務課担当者及び希望者で公開授業を行い、授業反省会を実施し、「主体的・対話的で深い学び」の研修を深める。 (2) 職員会議後などに短時間の研修を取り入れ、「目標に準拠した評価」の意図とこれにおける「形成的評価」(主に観点別評価)と「総括的評価」(5段階評価)の折り合いについて考える機会をつくる。 (3) ホームページの更新、ブログ、オープンスクール(体験講座含む)、学校説明会等において津山商業高校の魅力を十分に発信できるよう、随時内容を工夫する。	(1) 音楽祭(7月)学年発表の定着と発展的な見直し、また、自彊祭(9月)応援合戦での盛り髪の廃止などの成果を堅持しつつ、生徒のチャレンジ力・チームワーク力・コミュニケーション力等を養う取組を行う。 (2) 生徒会と連携したあいさつ運動・校門指導を継続し、自律性と規範意識の伸長を図るとともに、教師が真摯にかつ謙虚に思いを語る場面を増やし、生徒の心に迫る取組を行う。 (3) 関係機関との連携により、交通安全教室や自転車鍵かけコンテスト等を通じた安心・安全な環境の保障に努めるとともに、SNSをめぐる重大な危険性に鑑みて、インターネットモラル教室を継続開催し、生徒一人一人の生活と人権を守る「凡事徹底」の取組を行う。 (4) 生徒指導課会議を原則、週1回継続し、学年の枠を超えた情報共有の場とする。
今年度の達成基準	(1) 年2回(1学期末・2学期中間)の授業反省会を実施し、20名以上の参加者で意義深い反省会・研修を行う。 (2) 職員会議後に4回程度、10分間の研修会を開く。11月末頃には教育課程委員会で検討し、その後運営委員会・職員会議で内規の改定を行う。 (3) 地域の人々・中学生・保護者の本校教育に対するニーズを分析し、焦点を絞った情報発信やイベントを提案したり呼び掛けたりする。また、オープンスクール等(各種イベント)の参加者の満足度が90%以上を目指す。	(1) 生徒の思いを大切にしながら、クラス・学年発表の充実や体育の部プログラムの見直しなどを図り、事後アンケートにおいて肯定的回答が上昇した。 (2) ・(3) 「けじめある学校生活を送れている」「社会のルールやマナーを守っている」「あいさつを積極的にする」「勉強以外のことにも一生懸命になれる」「人権及び命の大切さを考える機会がある」といった人間教育・ビジネス教育に関わる項目を中心として、生徒自身の成長がうかがえる診断結果となった。 (2) ・(3) 特別指導件数12件以下となり、落ち着きある学校環境を保つことができた。
中間達成状況と改善点	(1) 1学期の公開授業実施者は3名だったので、授業反省会ではなく教務課による授業研修を行った。2学期中間考査中は日程が取れなかったので、12月を行う予定。 (2) 11月30日現在で職員会議後10分程度4回の研修を実施した。目標に準拠した評価の運用については再確認できつつあると思う。その後、教育課程委員会、運営委員会、職員会議と進めたいところではあるが、教育課程委員会では新課程編成が優先されると思われるので年度内に深まった議論ができるか不透明である。 (3) 地域の方に最近の津山商業生の印象について聞いた。態度に満足97.5%、マナーに満足は95.2%と肯定的な回答であった。オープンスクールの満足度について92.7%が満足と肯定的な回答であった。津商進学説明会では、参加者大半が「卒業後の進路や学科の違いなどを知ることができ良かった」と回答。HPの更新時期にばらつきがあり更新が進まない面がある。	(1) 音楽祭・自彊祭の事後アンケートから、肯定的回答が概ね多かった。 (2) 最終的にはアンケート結果からの判断となるが、挨拶は各学年とも年度当初よりできるようになってきている。 (3) 11月末現在で特別指導は9件。大部分の生徒は落ち着いた学校生活を送っているが、スマホ・SNSによるトラブルもある。11月に開催したインターネットモラル教室での指導と絡めて啓発をしているが、繰り返しの指導や保護者も巻き込んだ啓発も考える必要がある。 (4) 生徒指導課会議を原則、週1回継続して開いており、情報共有はもとより、生徒指導課関係の内規や生徒必携の修正に着手している。よりよい生徒指導に反映させていきたい。
最終達成状況と評価	(1) 公開授業は全員が実施することができた。日程の都合で授業反省会は実施できなかったが、授業研修やICT機器の研修を行った。参加者は目標としている20名は上回った。 (2) 職員会議後などで10分程度4回の研修を実施し、目標に準拠した評価の運用について再確認した。ただし、成績会議で出された資料から推察すると、さらに具体的な説明が必要だったのかもしれない。 (3) 生徒募集に係わるオープンスクールの満足度や津商進学説明会では、中間達成状況のように肯定的なご意見が大半であった。1月下旬二次調査では166人、1.04倍となり一次調査より13人減となった。他校に気移りしない行きたい学校となっていない。	(1) 音楽祭・自彊祭の事後アンケートから、肯定的回答が概ね多かった。 (2) 学校教育診断結果から、勉強以外のこと…73.3%→77.0%、けじめある…77.3%→81.1%、あいさつを…83.5%→83.8%に微増。社会のルール…90.6%→88.7%、人権及び命の…74.6%→69.4%に微減。教員の意識は「マナー教育」に関するものは微増だが、他の2項目は大幅に低下した。 (3) 2月21日現在で特別指導は11件。大部分の生徒は落ち着いた学校生活を送り、目標を達成できているが、スマホ・SNSによるトラブルもある。11月に開催したインターネットモラル教室での指導と絡めて啓発をしているが、繰り返しの指導や保護者も巻き込んだ啓発も考える必要がある。 (4) 生徒指導課会議を原則週1回継続して開き、情報共有の徹底を図ることができた。生徒指導課関係の内規や生徒必携・入学のしおりの整合性や現状に即した修正を行った。これを機に携帯電話等の指導など、2学期を中心に起こったような生徒指導案件の絶無を期し、来年度のより良い生徒指導に反映させていきたい。
今後の課題	(1) 新学習指導要領実施に向け、先生方の課題を明らかにして、研修を継続する必要がある。 (2) 新学習指導要領の告示に伴い評価の観点が変更された。今後も継続して研究が必要である。また、目標に準拠した評価が目指すところが教員間で共有できず、生徒・保護者に周知する方策が課題として残る。 (3) オープンスクールや進学説明会、津商モールなどの行事に参加し直接在校生に触れ合い知ってもらうことが大切。呼びかけの工夫が課題。 ・音楽祭や自彊祭など、行事での準備時間の在り方を検討する。 ・学校教育診断結果から、「共通理解に基づいた生徒指導」など、数値が大幅に下がった項目に関しては真摯に受け止め、生徒の成長につながる取組をしたい ・スマホ・SNS等に関する指導に特効薬はなく、繰り返しの指導や日頃からのモラルやマナー教育が不可欠である。また、服装・頭髪指導や、来年度から改定する携帯電話等の使用規定など、教員の意思統一と指導の徹底を図りたい。 ・自転車鍵かけコンテストは施錠率が昨年(98.9%)よりやや上昇して99.44%。第一部43校中3位となった。これを励みに来年度以降も指導を継続したい。	

具体的な学校経営目標		① 学びのメタ認知化と「主体的・対話的で深い学び」の推進、「指導と評価の一体化」の実践を目指した組織的な授業改善により、真に「自立した人間」に求められる学力を向上させるとともに、生徒が各自で見定めた進路を保障する。 ② 学校行事、総合的な学習の時間、社会貢献・国際交流活動、部活動、課外活動などの、生徒の主体的な活動の更なる活性化、諸活動及び校外との連携の強化を図り本校に対する地域からの信頼を高める。 ③ 安心・安全・快適な、また一人一人の生徒の自律性と規範意識を伸ばさせて健全な学校生活を送ることができる環境づくりの推進。 ④ 生徒の「伴走者」として寄り添いともに学びながら進む組織的・協働的な教職員集団になることで、上記の目標の効率的な実現を目指す。		
		進路指導課	保健厚生課	
今年度の具体的な目標	(1) 「学びの基礎診断」についての利活用を教員・生徒が共通認識し、生徒が主体的に学習活動に取り組むよう、PDCAサイクルを意識した指導に取り組む。 ①・④ (2) 昨年度に発行した進路通信の発行回数を増やし、進路情報をしっかり伝える。就職や進学先の情報に加えて、生徒が主体的に学習に取り組むきっかけとなるような内容も含める。①・④		(1) 緊急時対応の整備と定期の安全点検を徹底する。③ (2) 環境の整備と美化意識の啓蒙を進め、責任感や公共心を向上させる。③ (3) 特別な配慮の必要な生徒・保護者の支援する。④ (4) 健康を自己管理できる生徒の育成と検診後の処置を徹底する。③	
現状分析	(1) 「学びの基礎診断」に該当するツールとして本校ではベネッセの進路マップ基礎力診断テスト、同実力診断テストを受験している。ベネッセの個人診断レポートと進路指導課進学係が作成した資料を、教員・生徒に提供しているが、資料の情報共有と活用が不十分である。 (2) 進路通信は発行時点での就職状況や進学状況などの内容が主であり、進路決定のための目標設定や情報収集の手段、目標を成就するためにすべきこと、しておかなければならないことなどの具体性に欠けている。		(1) 安全点検は各所で定期的に実施され、不良個所の改善はできているが、毎月の確実な実施は不十分である。 (2) 地域に即したゴミ分別とゴミステーションの無施錠管理実施から2年が経過し、ほぼ問題なく運営できているが、個人差を感じる現状もあり、更なる意識改革が必要である。 (3) 特別支援委員会を昨年度施なし。スクールカウンセリングは有効である。 (4) むし歯治療率は岡山県平均(44%)より上回っており、H29(58.9%)、H30(70.3%)とアップしている	
具体的計画	(1) 本校が実施している「学びの基礎診断」認定ツールとしては実力診断テスト(スピーキングベネッセ採点)がこれに当たる。今年度入学生より1・2年生で4回受験させることになっているため、1年生の2月試験、2年生の9月、2月と3年生の6月を「学びの基礎診断」として今後計画していきたい。現2年生は2月試験を受験。2月試験で英語スピーキングを実施できるよう英語科とも連携していきたい。また、(2)の進路通信を活用して「学びの基礎診断」受験前の準備→、受験→、受験後の分析・リフレクション→、次回の準備→といった「学びの基礎診断」受験のPDCAサイクルを意識させたい。 (2) より進路決定を意識するための内容になるように、進路情報の提供と共に生徒の学習活動をアドバイスするための具体的な内容を盛り込み、興味を持って進路通信を読める内容のものとなるよう、年間4回から8回発行を目標とする。		(1) 各月の実施時期を朝礼などで連絡するとともに、個別にも実施を促す(各月25日頃)。 (2) 安心・安全・快適な環境づくりを目指し、現在の状況を変える新方策(①貸し出し傘の配備 ②環境美化に関する現状アンケートの実施など)を新規に実施する。 (3) Hyper-Qu(5月・10月)・スクールカウンセリング実施(各月)・特別支援体制を作り、特別支援委員会を実施する。 (4) 実施後及び各学期末に個別に通知する。また、2学期に歯みがき講習会を行う。	
今年度の達成基準	(1) 学校教育診断【生徒対象】の項目20、「先生に将来の進路や生き方について相談できる環境が整っていると感じられる」の項目、肯定的な回答を70%以上とする。(昨年度、肯定的な回答が65%) (2) 学校教育診断【保護者対象】の項目16、「学校はきめ細かい進路指導をしている」の項目、否定的な回答を4%以下とする。(昨年度、否定的な回答が5.7%)		(1) 各学期の廊下や階段など共用部分の安全点検に加えて、各月の安全点検が確実に実施できた。 (2) 生徒・教職員の美化意識が高揚し、埃の少ないクリーンな環境が整う。学校教育診断(生徒)の「ゴミの分別、清掃・美化活動がすすめられている」が80%以上となった。 (3) スクールカウンセリングを年15回は実施した。特別支援委員会を実施する。 (4) むし歯の治療率が75%以上となった。	
中間達成状況と改善点	(1) 今年度より1・2年生で実力診断テスト年間3回受験することになっている。9月試験については結果がまだ返却されてきていないため、6月との比較ができていない。返却後は6月との比較を教員がしっかりと分析した上で、生徒に返却し、次の2月試験の準備をさせたい。また、英語スピーキングについては具体的な受験準備ができていないため、英語科との連携を整えたい。 (2) 進路新聞はこれまでに3回発行している。進路情報の提供についてはその時点での新しい情報を流しているつもりだが、生徒が今欲しているタイムリーな内容なのかは判断できていない。生徒の学習活動をアドバイスするための具体的な内容、興味を持って進路通信を読める内容のものとなるよう、タイミングよく発行したい。	B	(1) 安全点検は毎月実施できているが、管理システムへの入力の不徹底であり、呼びかけを継続していきたい。 (2) 地域に即したゴミ分別に変更して3年目となり、一部に分別できない事態が生じ、ゴミステーション施錠と「環境整備委員会だより」で対応した。また、部活動における環境美化に関する現状アンケートも新規におこない、環境美化の啓蒙を図った。施錠解除に向けて対応中。 (3) スクールカウンセリングを現在8回実施している。特別支援委員会も5月に実施し、教職員間で情報共有を図った。 (4) むし歯治療率は25.5%と、目標の75%以上は達成できていない。	B
最終達成状況と評価	学校教育診断【生徒対象】の項目「先生に将来の生き方について相談できる環境が整っていると感じる」の項目が目標が、68.8%で若干下回った。否定的は若干減少(4%)している。 (1) 実力診断テストの6月と9月の比較で、D3ゾーンが1年生6人から16人、2年生9人から21人と増加しており、全体的に下降気味である。しっかりと家庭学習が定着するような方策を立てていかなければ、目標とする進路達成をすることは難しく、易きに流れてしまう恐れがある。 (2) 進路の新聞を発行し、進路情報の提供したり、生徒や進路指導課以外の教員に進路指導室との繋がりを持ってもらうことを目標に進めたかったが、今年も満足のいく開かれた進路指導室づくりは出来なかった。かろうじて保護者のきめ細かい進路指導を行っているのは71.7%(昨年69.8%)であったが教職員対象の調査ではかなり昨年と比較し、ポイントを下げている。	B	(1) 安全点検は毎月実施した。修繕や整備依頼が数件あったが校舎内外の安全に問題はない。 (2) 生徒の学校教育診断で美化活動の肯定的な意見が71.3%あり、昨年度より1.3%上がった。徐々に環境美化意識も上がっているが、目標は達成できなかった。生徒全員の共通認識が図れるように、啓蒙していきたい。 (3) スクールカウンセリングを13回実施した。あと2回実施予定である。特別支援委員会も5月に実施し、情報共有を図った。 (4) むし歯治療率は54.0%と、目標の75%以上は達成できなかった。	B
今後の課題	生徒の希望する進路を達成するためには、進路指導課教員だけでは目標を達成することは難しい、教職員全員が進路指導担当といった意識を持ち、まずは生徒の進路意識の向上と基礎学力を定着させるための取組を進めていく必要を感じる。かつてあった津商ブランドは遠い昔のことで、津山市周辺の高等学校が高校再編整備となり、本校にも学力的に厳しい生徒が多数入学している。このことを踏まえ知恵を出し合っていかなければいけない。まずは少しでも家庭学習が定着できる取組を考える。		(1) 毎月の安全点検を引き続き徹底していく。 (2) 掃除用具や用具収納の整備。 (3) 支援の必要な生徒個別の支援計画を作成し全体で取り組む。 (4) 来年度も継続して取り組む。	

具体的な学校経営目標		① 学びのメタ認知化と「主体的・対話的で深い学び」の推進、「指導と評価の一体化」の実践を目指した組織的な授業改善により、真に「自立した人間」に求められる学力を向上させるとともに、生徒が各自で見定めた進路を保障する。 ② 学校行事、総合的な学習の時間、社会貢献・国際交流活動、部活動、課外活動などの、生徒の主体的な活動の更なる活性化、諸活動及び校内外との連携の強化を図り本校に対する地域からの信頼を高める。 ③ 安心・安全・快適な、また一人一人の生徒の自律性と規範意識を伸ばさせて健全な学校生活を送ることができる環境づくりの推進。 ④ 生徒の「伴走者」として寄り添いともに学びながら進む組織的・協働的な教職員集団になることで、上記の目標の効率的な実現を目指す。		
		1 年 団	2 年 団	3 年 団
今年度の具体的な目標	(1) 社会人として自律した人間になれるよう、3年後を見通した基礎固めの指導を行う。学年団の目標を「凡事徹底」とし、当たり前前を当たり前前にできるための指導を行う。①③ (2) 部活動全員入部を勧め、100周年に向け技術・技能の向上だけでなく、総合的な人間力の向上を目指し、他者との協調性、チームワーク、自主性の育成を図る。② (3) 情報の共有や各教員のスキルの共有を図り、全員体制で効率的に指導に当たる。④	(1) 自律性の伸長を目指し、自己管理能力（基本的な生活習慣）の育成を図る。③ (2) 総合的な学習の時間や学校行事への取組を通して、生徒の主体性を伸ばし、社会や地域について知り、自ら考え、行動する力を育成する。②	(1) 生徒が自らの適正及び能力を見定めて進路選択を行えるよう、学年団と各課の連携を密にし、進路実現100%を目指す。①④ (2) 学校行事や社会貢献活動に主体的に取り組むことで学校のリーダーとしての意識を持たせるとともに、自律性と規範意識を伸長を図る。②③	
現状分析	(1) 平成30年度学校評価アンケートでは、あいさつを積極的にしている。83.5% 身の回りの整理整頓ができています。70.9% (2) ほとんどの生徒が中学校時代に部活動に入部しているので、高校でも引き続き、個々の興味関心、能力に応じて入部させる。 (3) 経験のない学年主任や新採用の教員がいる一方、ベテランや各課長・主任も多い。	(1) 昨年度手帳を使っただけの自己管理能力向上を目指したが、適切な使用（記入）ができていない生徒は7割ほどにとどまった。きちんと活用できている生徒とそうでない生徒との個人差が大きい。基本的な生活習慣の確立も十分とは言えず、挨拶が自分からできない、家庭学習が不十分であるといった生徒が目立つ。 (2) 受動的で、自ら考え、主体的に行動する生徒の割合が低い。地域・社会に対する関心が低い者も多い。	素直な生徒が多く、基本的な生活習慣はおおむね確立されているが、全体的に大人しく、やや積極性に欠ける。全体的に取り掛かりが遅い印象がある。 (1) 2年次の進路希望調査では就職希望が70名、進学希望が84名、3名が未定である。 (2) H30 学校教育診断で「生徒が勉強以外のことにも一生懸命になれる学校である。」の項目では肯定的な回答が73.3%であった。また、「ボランティア活動に積極的に参加できる機会があると感じる。」の項目では肯定的な回答が80.8%であった。	
具体的な計画	(1) 年2回以上は個人面談を実施する。基本的な生活習慣に関するセルフチェックをさせ、年度当初に作成した面接カードを用いて面談を行う。 (2) 入部届や4月の個人面談で確認し、以後の個人面談でも状況確認をおこなう。入部状況を確認できる共有シートを作成する。 (3) 朝礼と週1回の学年団会議で、情報の共有を図る。	(1) SHRで必ず手帳を開き、家庭学習時間の計画と実際の学習時間の記録を記入させる。また一日の振り返りの記入も徹底させる。 ・チェックを最低学期に3回以上行う。 ・上手な手帳の使い方の例を学年全体で共有する。 (2) 総合的な学習の時間で自ら課題を設定し、それについて調べ、まとめて発表する活動を最低2回行う。 ・社会や地域に対する関心を高めると共に自ら考え、発表する力を育成するため、SHRで自分の意見を発表する機会を設ける。	(1) 全商検定1級未取得者については検定前などに学習会を実施し、合格へと導く。商業科職員とクラス担任とが連携し、生徒のモチベーションの維持を図る。 ・進路テスト65点以下の生徒には課題を出し、学習の定着を図る。 (2) 案内や呼びかけを積極的に行い、参加を促す。	
今年度の達成基準	(1) 上記現状分析欄に示されているアンケート結果など、自分を律する項目が80%以上になる。 (2) 年度末時点で入部率70%とし、退部した生徒には違う部への入部を勧める。 (3) 経験年数に関わらず、学年団会議での意見交換が活発に行われ、1人1回は発言する。	(1) チェック時には8割の生徒が手帳に学習の計画と実際の学習時間の記録、1日の振り返りが記入できている。 (2) 総合的な学習の時間での取組に関する振り返りで「主体的に活動できた」の回答が8割以上。	(1) 進路実現100% 全商検定1級1種目以上取得者100% 進路テスト平均点75点以上 (2) 学校教育診断 「生徒が勉強以外のことにも一生懸命になれる学校である。」・・・肯定的な回答が80%以上 「ボランティア活動に積極的に参加できる機会があると感じる。」・・・肯定的な回答が90%以上	
中間達成状況と改善点	(1) 面接カードを用いて面談を4月に行った。手帳を活用し、起床時間や就寝時間、家庭学習時間の把握を行い、声掛け等をおこなうことができた。 (2) 11月時点での入部率 96.8% 退部した生徒には引き続き声掛けをおこなっていき。 (3) 活発に行われつつある。今後も朝礼や学年団会議、普段の会話の中で意見の交換を行っていき。	(1) 手帳のチェックはクラスによって回数に違いがあるが、学期に最低3回は実施されている。年度当初に手帳の使い方について改めてプリントを配布し、説明した。上手な使い方の例の共有は十分にはできておらず今後の課題である。 (2) 課題について調べまとめる活動は、1学期にフィールドワークについて1回レポート作成までを実施した。現在は3学期の発表に向け設定した課題の調査、研究を行っている。SHRでは自分の意見を発表する場を設け、簡単なスピーチを行っている。	(1) 進路未決定11人（12月2日現在） 全商検定1級1種目以上取得者89.8% 進路テスト平均点65.7点 検定前などに学習会を実施し、進路テストでは課題を出すなどし、学習習慣の確立に努めた。進路決定後も意欲的に取り組むことができるよう、目標を立て、達成度を定期的に確認している。 (2) ボランティアについては案内や呼びかけを積極的に行い、参加を促す。	
最終達成状況と評価	(1) 学科選択の面談と合わせてはあったが、年間2回個人面談をおこなうことができた。手帳に関しては、アンケート結果によると、約56%の生徒が手帳を使い始めて以前よりも日々の予定や行動に意識して取り組むようになったと回答している。 今年度の学校評価アンケートでは下記の結果となった。 あいさつを積極的にしている。83.5%→83.8% 身の回りの整理整頓ができています。70.9%→75.1% はじめある学校生活を送れている。77.3%→81.1% 自分を律する項目は多少の増加の項目もあるが、概ね上昇している。 (2) 2月末時点での入部率は92.4%と高い数値ではあるが、部活動に参加していない生徒もいる。 (3) 2月末時点で学年団会議は34回行い、朝礼時にも様々な情報を共有することができ、共通理解をもって生徒に対応できた。	(1) チェック時に手帳に学習計画、実際の学習時間の記録、一日の振り返りが記入できている生徒は8割ほどである。強制された時にはできるが、そうでないときにもできるという習慣化された生徒は2、3割といったところである。上手な使い方の全体共有はあまりできなかった。 (2) 1学期にフィールドワークの報告書、3学期には自分たちで設定したテーマに基づきフィールドワーク等で調査研究した結果をポスターセッションで発表と合計2回実施した。振り返りのアンケートは主体的な取組への肯定的な回答は73%と8割にわずかに届かなかった。SHRでのスピーチは、気になるニュースなどのトピックを取り上げ1年を通して全クラスで実施した。発表者だけでなく聞く者の態度が向上したり、ニュースに関心をもち、考察する力の育成にもつながった。	(1) (3月1日現在) 進路決定100% 全商検定1級1種目以上取得者89.8% 進路テスト平均点65.7点 (2) 学校教育診断 「生徒が勉強以外のことにも一生懸命になれる学校である。」肯定的な回答80.0% (学校全体77.0%) 「ボランティア活動に積極的に参加できる機会があると感じる。」肯定的な回答77.1%(学校全体83.9%) 自彊祭や津商モールの中心として取り組んだ結果であると考え。ボランティアについては昨年度と比較して、学年主催のボランティアや部活単位での参加が減少したことが考えられる。	
今後の課題	・手帳について昨年同様今年度も導入したが、クラスごとや生徒間で差があり、次年度も継続して指導していきたい。メモをとったり予定を確認したりする一つのツールとして、身近なものにしてもらいたい。また、次年度から総合的な探究の時間や修学旅行があり、今よりも積極的に行動する場面が多くなるため、言われたことだけでなく、周りを見て主体的に活動できるように指導していきたい。 ・進路選択についても徐々に話を進めていく。そのためにも、クラス面談の機会を多く作れるようにし、より一層教員間での情報共有の徹底を図りたい。	(1) チェック時にしか書かない生徒もいまだ多い。主体的に利用し、自己管理に活用できている生徒も一定数いるが、それを増やしていくよう、3年での進路指導とも絡めて引き続き指導していきたい。 (2) 研究のまとめに苦労する班もあり、課題解決に向け論理的に思考する、表現するという点について継続した指導が必要である。	(1) 進路実現に向けての取組については、学年団で協力して指導することができた。高い目標に挑戦すること、進路決定後の学校生活などについては指導の工夫が必要だった。 (2) クラスや学年単位での取組も必要ではあるが、生徒の自発的な活動を促す方策を考える必要がある	

<p><b>具体的な学校経営目標</b></p>	<p>① 学びのメタ認知化と「主体的・対話的で深い学び」の推進、「指導と評価の一体化」の実践を目指した組織的な授業改善により、真に「自立した人間」に求められる学力を向上させるとともに、生徒が各自で見定めた進路を保障する。                  ② 学校行事、総合的な学習の時間、社会貢献・国際交流活動、部活動、課外活動などの、生徒の主体的な活動の更なる活性化、諸活動及び校内外との連携の強化を図り本校に対する地域からの信頼を高める。                  ③ 安心・安全・快適な、また一人一人の生徒の自律性と規範意識を伸ばさせて健全な学校生活を送ることができる環境づくりの推進。                  ④ 生徒の「伴走者」として寄り添いともに学びながら進む組織的・協働的な教職員集団になることで、上記の目標の効率的な実現を目指す。</p>	
	<p><b>商業科</b></p>	<p><b>学力向上委員会</b></p>
<p><b>今年度の具体的な目標</b></p>	<p>(1) 「第11回津商モール」に至る様々の取組み・実践を通し、本校生徒の備えるべき力を育成させる。                  &lt;具体的な目標&gt;                  ・『ふり返り』を重視した「津商授業3」の実施で、授業改善を図る。(①)                  ・教科・科目間や特別活動との連携推進。(②)                  ・地元企業・団体と連携を図り、自発的・主体的な活動を実施することで、資質・能力の伸長。実社会や津商モールに即した教材選びなど、資質・能力の伸長を図る教材研究と授業実践。(②・③・④)                  ・検定取得を通し、課題発見力・主体的に取り組む力を育成。(①・④)                  (卒業時全商1級1種目100%の達成、3種目以上50%の達成を目指す)</p>	
<p><b>現状分析</b></p>	<p>(1) 「津商授業3」の実践はできているが、『ふり返り』に対する取組が不十分である。                  ・教科・科目間や特別活動・行事等との連携が図られている場面が限定的である。                  ・昨年度の学校教育診断結果より                  自分で考え活動する授業の工夫 H29 76.2%→H30 73.5%                  情熱をもった指導 65.5%→ 77.8% (保護者 81.3%)                  資格・検定に向けた適切な指導 87.6%→ 83.3% ( 95.4%)                  ルール・マナーの遵守 75.5%→ 90.6% ( 78.6%)                  ・H30年度末全商検定取得状況                  3年生：1級1種目95.5% (150/157人)、3種目以上43.3% (68/157人)                  2年生：1級1種目79.0% (124/157人)、3種目以上14.0% (37/157人)</p> <p>(1) (2)平成30年度授業評価アンケートによると、                  ア.先生は「本時の目標」をはっきり示して授業を始めている。 94.3%                  イ.自分で(班で)考える時間がある。 87.8%                  ウ.自分で(班で)考えを発表する時間がある。 77.7%                  エ.授業の振り返りの時間がある。 83.9%                  オ.説明中心の知識を得るだけの授業ではなく、知識を使って考えたり活動したりする授業である。 90.2%                  カ.学んだ内容が、日常生活や実社会と繋がっており、すぐに役立つ授業 90.2%                  「津商授業3」は教員・生徒と共に浸透してきている。しかしながら、予習・復習をしている生徒は50%程度しかおらず、主体的に学習する習慣は今一つである。また、学習内容と社会とのつながりを認識できている生徒も増加している</p>	
<p><b>具体的計画</b></p>	<p>(1) 「授業3」において『ふり返り』を重視した授業を実践。科目内での『ふり返り』の共有を図る(2学期までに定着化する)。                  ・教科・科目間または、行事等と連携した授業を学期1回以上実践する。                  ・教材として「津商モール」とのつながりを持たせたり、「インターンシップ」などで実社会との関わりを持たせることで、資質・能力を生徒に十分に意識させる。                  ・商業科職員と学年団(クラス担任)とが連携を密にしながら、未取得者については2月実施の検定まで受験を促し、合格へと導く。検定前など、相互の連携を図り対策講座を実施する。</p> <p>(1)公開授業を定期的に行うことにより、教員の意識向上に努める。公開授業実施後の教員の振り返りを充実することにより、お互いに指導力向上を図る。「振り返りシート」等の活用を図り、生徒の学力向上に努める。                  (2)教科・科目の学習活動と特別活動の繋がりを意識した授業目標の設定や教材作成を行う。</p>	
<p><b>今年度の達成基準</b></p>	<p>(1) 科教員アンケートで、『ふり返り』の実施率が100%となった。授業評価アンケートの項目で、肯定意見80%以上となった。                  ・科教員アンケートにおいて「教科・科目・特別活動等との連携」した授業を1回以上実践した。                  ・津商モールの生徒事後アンケートで、育てる資質・能力についての評価が昨年度より向上した。協力企業・来場者へのアンケートでも、「資質・能力が発揮」に対する肯定評価が80%以上となった。                  ・卒業生が全商1級1種目100%、3種目以上が50%以上となった。</p> <p>(1)本年度の授業評価アンケートで上記に関する項目の肯定的評価が上昇した。                  (2)生徒にアンケート調査に肯定的評価が6割以上となった。</p>	
<p><b>中間達成状況と改善点</b></p>	<p>(1) 科教員アンケートで、『ふり返り』の実施率が100%となった。1学期末の授業評価アンケートの項目で、肯定意見77.9%になった。(昨年度84.9%)                  →『振り返り』を共有し、次の学びにつなげる取組につなげる。                  ・科教員アンケートにおいて「教科・科目・特別活動等との連携」した授業を1回以上実践した。                  →36.4% (4人/11人)、津商モール等が近づくにつれ、強化されるものと思われる                  ・津商モールについては、後日実施のため、総括に至っていない。商店街・アルネ津山との連携を深め、生徒自身が「中心市街地の活性化に参画する」意識を高揚させていきたい。                  ・9月末検定取得状況は3年生1級1種目以上89.2% (96.1%)、3種目以上30.0% (46.5%)                  →全体の意識を高められるよう、今後も学年団との連携を密にしていく。</p>	<p>(1)公開授業の実施は、ほぼ全員が終了した。10月、11月に集中したが、指導方法や指導内容の検討に対しては、同じ教科内、科目内で相談する様子を頻繁に見かける。                  (2)7月の授業評価アンケートでは、肯定的評価が6割を超えたが、全体的に昨年度より低下した。</p>
<p><b>最終達成状況と評価</b></p>	<p>(1) 商店街・アルネ津山で開催した津商モールは、来場客数5,800名(前年比1.93倍)となり、中心市街地に活気を取り戻すことができた。モール後の生徒アンケートから、91%が中心市街地での開催を意識し、全員が「中心市街地・地域に貢献できた」と回答している。来場者・市民からも「次も商店街で」との声が寄せられるほど、生徒・学校・地域に波及効果をもたらすことができた。                  ・『ふり返り』の実施について、実施が安定してきている。                  ・「教科・科目・特別活動等との連携」の実践について、大半の授業で行われた。                  ・卒業生における1級1種目以上142名90.4%(昨年99.4%)、3種目以上58名36.9%(41.1%)、技術顕彰受賞者57名</p>	<p>(1) (2)令和元年度12月授業評価アンケートによると、                  ア.先生は「本時の目標」をはっきり示して授業を始めている。 89.7%                  イ.自分で(班で)考える時間がある。 84.4%                  ウ.自分で(班で)考えを発表する時間がある。 78.4%                  エ.授業の振り返りの時間がある。 83.9%                  オ.説明中心の知識を得るだけの授業ではなく、知識を使って考えたり活動したりする授業である。 86.0%                  カ.学んだ内容が、日常生活や実社会と繋がっており、すぐに役立つ。 86.3%                  昨年同月と比較し、ポイントが下降しているものが増えている。教員側の感想では、決してマイナス評価が多くなってはいないことから、授業内容が画一化してきて、変化を生徒が感じられなくなっている可能性があると思われる。年度始には教員側の意識の確認を進める必要がある。                  (3)津商モールでは、日ごろの学習の成果を十分に発揮していた。生徒もそのことの意義を理解して取組んでいた。今後も、津商モールを一本の軸として、活動をまとめるのがよいと考える。</p>
<p><b>今後の課題</b></p>	<p>・今年度の津商モールを通して、津商が地域の方々に必要とされていることを生徒・職員含め、実感できた。商業科を含め、全校を挙げて「地域で愛される商業高校」となるため、何が出来るかを考える必要がある。                  ・資格取得に対する生徒の意識が変化しつつある。資格・検定取得の意義を伝え、モチベーションを高める取組が必要である。</p> <p>(1) (2)教員・生徒共に慣れが生じてきている。年度初めには、何が出来るのか、何を学ぶのか、どのように学ぶのかを確認し、授業への取組をどのようにしていくのか、生徒への指導を共有して進めたい。                  (3)勉強に興味を感じない生徒が増加している。特別活動やHR活動を通じて、学ぶ意義を感じさせたい。                  授業に積極的に取り組んでいる。91.7%(昨年度比較 -1.6%)</p>	